

## 第2章 総合戦略

# I 総合戦略策定にあたって

---

## 1 基本的な考え方

### (1) 趣 旨

大樹町の人口は、平成31（2019）年3月末現在の住民基本台帳では5,543人となっていますが、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」）の推計に準拠した方法によると、令和12（2030）年には4,827人に、令和27（2045）年には3,977人まで減少すると推計されています。

この急激な人口減少は、超高齢化の人口構造とも相まって、地域の経済、暮らし、行政などの幅広い分野において極めて深刻な事態を招きます。

国は、平成26年、まち・ひと・しごと創生法を制定し、人口減少に歯止めをかけ、東京圏への人口の過度の集中を是正し、将来にわたって活力ある日本社会を維持するため、まち・ひと・しごと創生総合戦略を作成し、関連施策を総合的かつ計画的に実施することとしました。

大樹町においては、人口減少を食い止め、活力ある地域社会の維持を図るため、産業界、行政機関、教育機関、金融機関、労働団体、報道機関などから意見を募り、各種施策を危機感とスピード感を持って講じることを目的に、「大樹町まち・ひと・しごと総合戦略」（以下「総合戦略」）を策定することとしました。

### (2) 総合戦略の位置づけ

総合戦略は、国の総合戦略、北海道総合戦略、十勝定住自立圏共生ビジョンなど他の計画も勘案しつつ、平成26（2014）年からスタートした「第5期大樹町総合計画」（2014～2023年）の基本目標を、総合戦略の基本目標として位置づけることとします。

### (3) 計画期間

令和2（2020）年度から令和6（2024）年度までの5年間とします。

### (4) 設定人口

この総合戦略では、第5期大樹町総合計画基本構想の設定人口である令和5（2023）年の5,200人を基本として、社人研推計人口2045年の3,978人を117人上回る4,095人、2065年の3,043人を195人上回る3,238人とした「大樹町人口ビジョン」を策定し、これを総合戦略の目標、設定人口とします。

## 2 計画の推進にあたって

### (1) まちづくりの基本的な考え方

人口減少や少子高齢化が急速に進む社会情勢にあっても、魅力的で活力にあふれ、持続可能なまちづくりを行うことが必要です。

そのためには、町の現状、課題及び方向性を共有化し、協働で魅力ある大樹町をつくるという視点が必要になります。

この前提に立って、町全体でまちづくりを進める基本的な考え方を整理します。

#### ① 情報共有と協働の推進

統計データや各種の情報、住民、地域、企業、行政などが行う様々な取組みが、分かりやすく、様々な媒体で発信され、情報が行き交い、今以上に共有できるような状態を目指します。

お互いの取組みを理解し、協働で課題解決に向けた活動を行うための基盤をつくります。

住民の行政に対するニーズが多様化する中、「町長と語る会」や「ブロック懇談会」など、住民と行政が直接対話する機会を大切にしながら、幅広い意見を反映し、高い実効性を確保します。

#### ② 広域行政の推進

自動車道の延伸やライフスタイルの変化により、住民の生活圏が自治体の枠を超えて広がり、様々な行政課題も広域化、複雑化しています。

十勝は帯広市を中心市とした十勝管内18町村が十勝定住自立圏共生ビジョンを策定し、圏域全体で必要な生活機能を確認することにより、地方圏への人口定住を促進する自治体間連携の取組みを進めています。

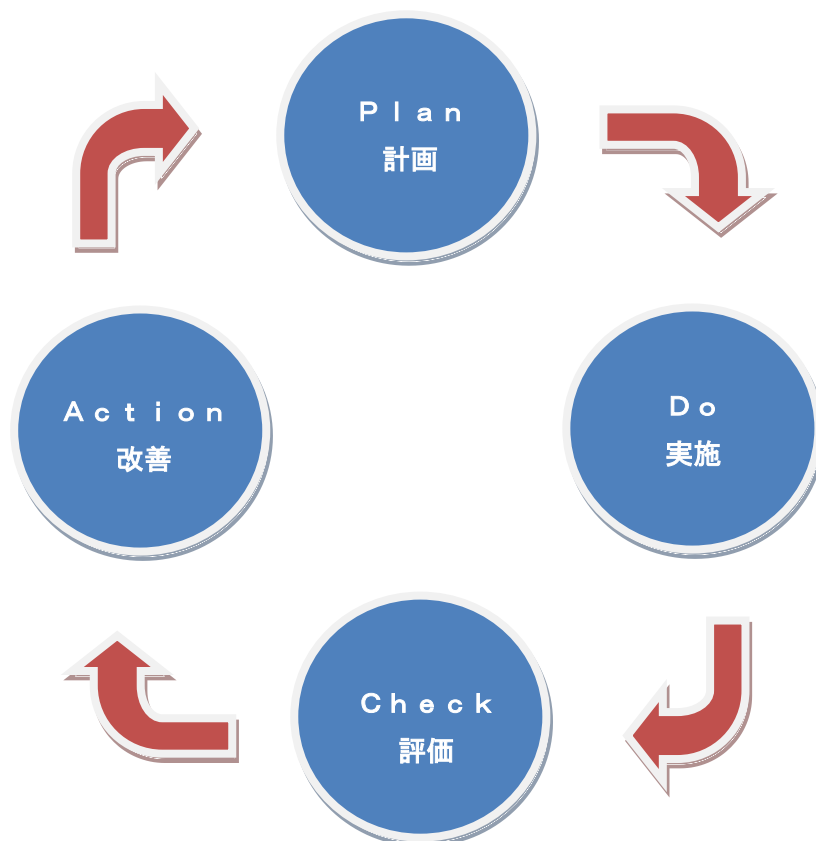
この十勝定住自立圏共生ビジョンをはじめ、国、道、関係市町村などとの役割分担、連携体制の構築などを進め、効果的かつ効率的な対応を図り、より質の高い行政サービスを提供していきます。

### (2) 数値目標と進捗管理

#### 総合戦略の進捗管理（PDCAサイクルの構築）

この総合戦略は、各施策に数値目標KPI（重要業績評価指標）を掲げており、これらの検証を通じて施策及び事務事業の評価を行います。これらの評価は、大樹町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議において協議し、そこでの意見を踏まえて施策・事務事業の見直しを行い、更なる展開につなげるPDCAサイクルを構築します。

PDCAサイクルは、計画（Plan）、実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）を行うことにより、計画期間に即した目標設定を達成するための効果的な管理サイクルを構築し、進捗を管理するものです。



PDCAサイクルイメージ

### （3） 持続可能な開発目標（SDGs\*）の達成に向けた施策の推進

2015（平成27）年9月、国連で150を超える加盟国首脳が参加の下、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択され、その中の核として17のゴールと169のターゲットからなる「SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）」が掲げられました。

本戦略は、人口減少下においても、将来にわたり安心して暮らし続けることのできる地域社会づくりを進めることを取組みの基本としていることから、SDGsの理念と合致する施策について推進していくこととします。

## Ⅱ 総合戦略の基本方針

### 1 まち・ひと・しごと創生に向けた政策5原則

人口減少克服・地方創生を実現するため、国と同様、次の5つの政策原則に基づき施策を進めます。

「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻す。

#### ① 自立性

・地方公共団体、民間事業者、個人等の自立につながる施策に取り組みます。

#### ② 将来性

・施策が一過性の対症療法にとどまらず、将来に向かって、構造的な問題に積極的に取り組みます。

#### ③ 地域性

・地域の強みや魅力を活かし、地域の実態に合った施策を、自主的かつ主体的に取り組みます。

#### ④ 総合性

・施策の効果をより高めるため、多様な主体との連携や、他の地域、施策との連携を進めるなど、総合的な施策に取り組みます。その上で、限られた財源や時間の中で最大限の成果を上げるため、直接的に支援する施策に取り組みます。

#### ⑤ 結果重視

・施策の結果を重視するため、明確なPDCAメカニズムの下に、客観的データに基づく現状分析や将来予測等により短期・中期の具体的な数値の区票を設定した上で施策に取り組みます。その後、政策効果を客観的な指標により評価し、必要な改善を行います。

この政策原則に基づき、第5期大樹町総合計画の理念とテーマを念頭に置き、基本目標に沿って具体的な施策等を設定します。

## 【理念】

「～活力とやすらぎあふれるまちづくり～大いなる挑戦の継続」

## 【テーマ】

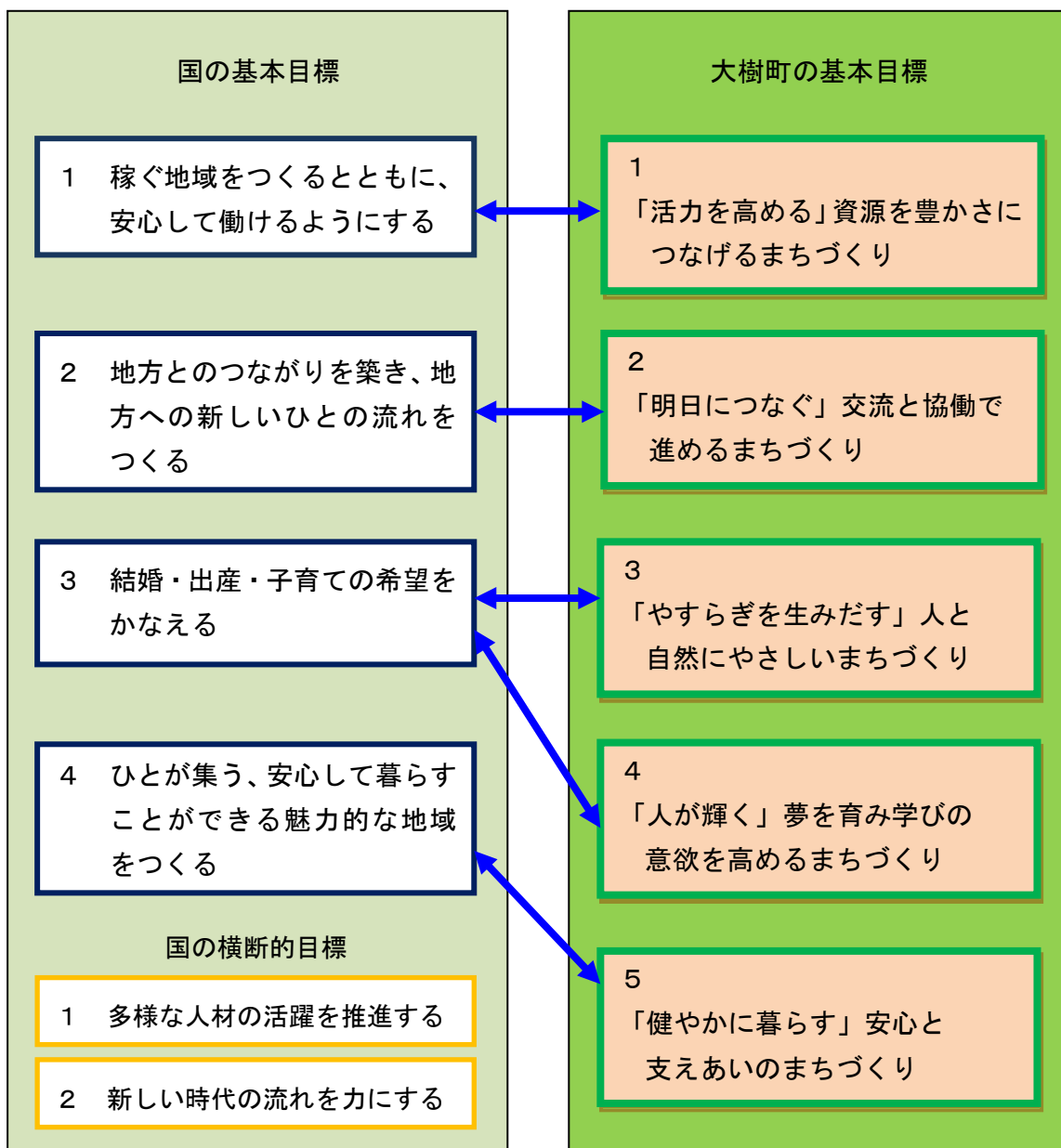
「～暮らしと明日を彩る清流の里～コスモスのまち 大樹」

### 2 5つの基本目標

国は、今後の施策の方向として4つの基本目標と2つの横断的目標を定めています。

大樹町の総合戦略では、第5期総合計画に掲げる5点の基本目標を、大樹町の「まち・ひと・しごと総合戦略」の基本目標とすることとし、その主な関係については、次のとおりです。

#### 国の総合戦略の基本目標との関係



① 基本目標1 「活力を高める」資源を豊かさにつなげるまちづくり

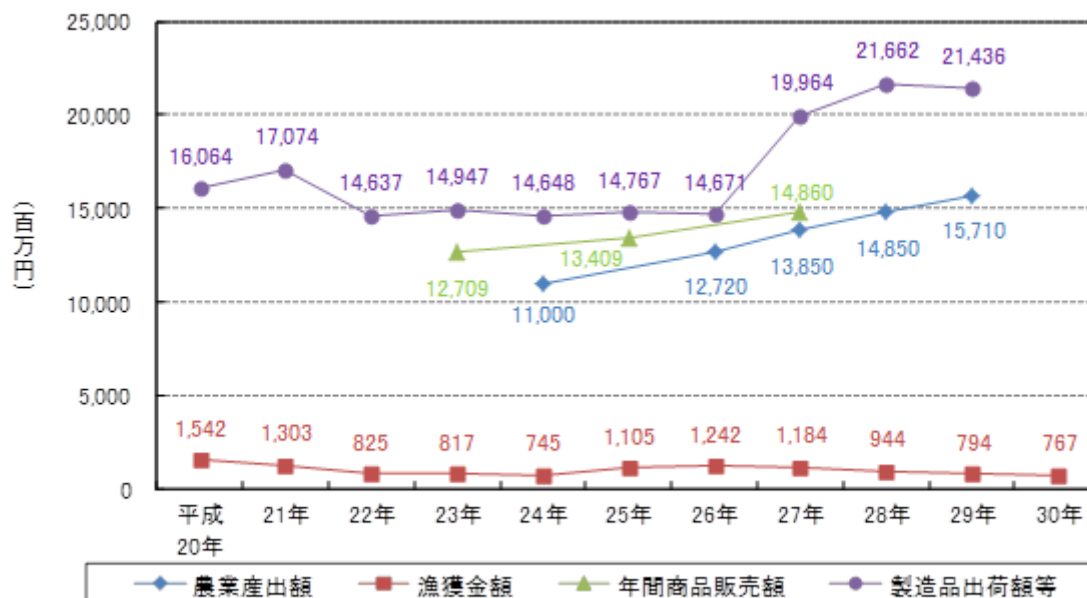
本町の基幹産業である農業、漁業の基盤を強化し、担い手と雇用の確保を図ります。

本町の資源と環境を生かし、付加価値を高めた製品づくりや販売促進を支援するとともに、空き店舗利用や全町におけるICT利用の促進、起業家支援など商店街の活性化を図ります。

木質バイオマスなどの新エネルギーの利用により、資源の地域内循環を図り、環境に負荷の少ないまちづくりを進めるとともに、多様な観光ニーズに対応するよう、施設の充実と観光メニューの開発を進め、町の魅力アップによる人の流れを作り出します。

十勝定住自立圏共生ビジョンなど、広域の取組みを進め、施策の充実を図ります。

図 産業別の生産・販売額などの動向



資料：農業産出額：大樹町農林水産課

漁獲金額：北海道水産現勢

年間商品販売額：商業統計調査、経済センサスー活動調査

製造品出荷額等：工業統計調査、経済センサスー活動調査

表 大樹町の観光入込み客数の推移

単位：千人

平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
49.7	49.7	58.4	38.2	49.5	51.1	44.4	43.0	52.8	53.9	55.5	58.0

## ② 基本目標2 「明日につなぐ」交流と協働で進めるまちづくり

姉妹都市、友好都市などのつながりと拡がり大切に、都市住民の農業体験その他の都市との地域間交流を図るなど都市と農村の交流を活発化させる他、地域おこし協力隊やテレワーク等の取組みによる新しい人材の芽を育てます。

また、お試し暮らし住宅やワーキングステイ制度の活用により、移住・定住を促進するとともに、体験観光を実践する南十勝長期宿泊体験交流協議会（STEP）や株式会社メムアースホテル等の団体・民間企業とも連携を図りながら、新しい人の流れをつくります。

当町では、1,000mの滑走路を有する「大樹町多目的航空公園」を整備し、航空宇宙関連の実験を誘致するなど30年以上にわたり宇宙のまちづくりに取り組み、令和元(2019)年5月には当町に拠点を置く宇宙ベンチャー企業が製造した小型ロケットが民間単独開発としては日本で初めて宇宙空間到達という快挙を達成し、サブオービタルスペースプレーン（宇宙往還機）を開発する宇宙ベンチャー企業が当町での実証実験を計画するなど航空宇宙関連産業の集積に向けた機運が高まっています。

これを好機ととらえ、さらに宇宙のまちづくりを加速させるため、航空公園に航空宇宙関連実験・ビジネスに必要な機能を拡充するとともに、航空宇宙ビジネスにチャレンジする事業者の支援や観光など関連産業への波及効果の創出、航空宇宙に関する普及啓発など航空宇宙関連実験・ビジネスを推進し、当町が拠点となり、北海道に多くの航空宇宙関連企業が集積する「宇宙版シリコンバレー」を目指すことにより、地域の「しごと」「ひと」の好循環と「まち」の活性化を図り、人口減少に歯止めをかけます。



民間企業による単独開発として日本で初めて宇宙空間に到達した小型ロケット

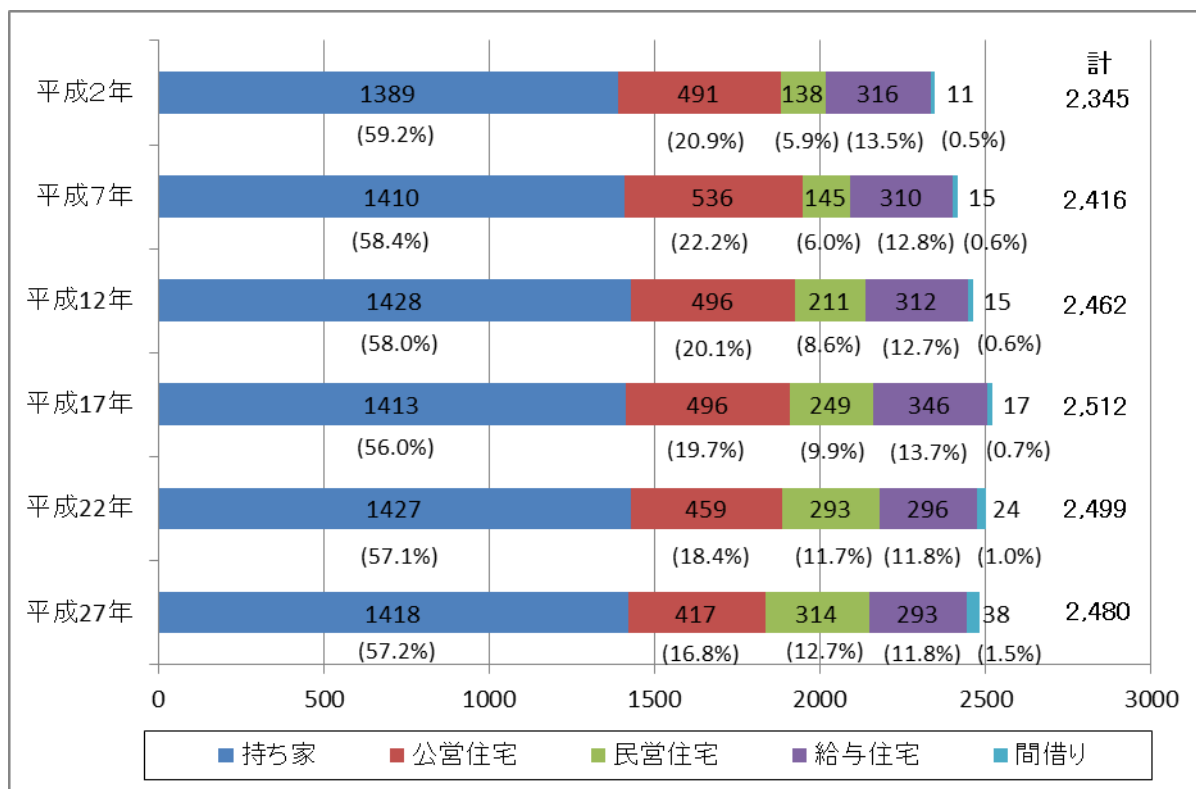


### ③ 基本目標3 「やすらぎを生み出す」人と自然にやさしいまちづくり

市街地におけるコンパクトなまちづくりを進め、町有地の有効活用や安全な歩道網の整備、住宅取得に対する支援など、子どもを生み育てる世代から高齢者まで安全・安心で快適な生活空間をつくります。

また、高齢化や人口減少などにより、今後、公共交通の役割や重要性が高まることから、利用者の利便性に配慮した地域交通の在り方を検討していきます。

表 住宅の所有関係



資料：国勢調査（一般世帯\*のみ）

※ 国勢調査では世帯を「一般世帯」と「施設等の世帯」に区分している。

その中で「一般世帯」とは、戸建て・集合住宅、間借り・下宿、会社や官公庁などの寄宿舍・寮による世帯を示す。なお「施設等の世帯」は、学生寮、病院、社会福祉施設、自衛隊営舎、矯正施設などによる世帯を示す。

#### ④ 基本目標4 「人が輝く」夢を育み学びの意欲を高めるまちづくり

町内の小学校、中学校、高校が連携して、地域の特色を生かした教育の充実、国内外に展開している姉妹都市や友好都市等との人材交流を図るとともに、交流を通じて広い視野をもつ人を育てます。

また、社会教育、社会体育施設の整備とこれらの施設を生かした学習機会の充実を図る他、引き続き、大樹高等学校の存続支援にも取り組んでいきます。

表 交流都市等の状況

締結市町村	締結年月	摘要(人口)
姉妹都市 福島県相馬市	昭和58年 3月	34,854人 (R1.9)
銀河連邦 神奈川県相模原市	平成22年 4月	722,839人 (R1.12)
岩手県大船渡市	//	35,912人 (R1.11)
秋田県能代市	//	52,355人 (R1.11)
長野県佐久市	//	98,957人 (R1.10)
鹿児島県肝付町	//	15,162人 (R1.11)
宮城県角田市	平成28年 4月	28,798人 (R1.11)
友好都市 群馬県吉岡町	平成23年10月	21,663人 (R1.12)
友好交流都市 台湾高雄市大樹區	平成27年 9月	42,150人 (R1.11)
災害協定締結都市 栃木県大田原市	平成30年 9月	73,419人 (R2.1)

#### ⑤ 基本目標5 「健やかに暮らす」安心と支えあいのまちづくり

若者の出会いの場に関する情報提供を充実させ、婚活をサポートするとともに、妊娠や出産を支援します。

心身の健康を保つため、運動の場の確保や健康クラブなど、サービスの充実に加え各種健診と医療体制の充実により、健やかでやすらぎのある安心な暮らしを確保します。

ファミリーサポート、介護ボランティアや日常生活支援サポーターの養成など、住民参加により、地域で支え合う仕組みづくりを進めます。

### Ⅲ 総合戦略の内容

#### 基本目標 1 「活力を高める」資源を豊かさにつなげるまちづくり

##### 基本目標 の方向

大樹町は一次産業のまちですが、農業においては日米貿易協定の発効等、国際社会における自由貿易の広がりが進み、漁業、林業を取り巻く環境も厳しい情勢にあることから、豊かな自然を生かし、生産力の強化を図りながら付加価値を高めることにより、若い世代が夢と希望を持って大樹町の一次産業に就業できるよう施策を講じます。

また、ロケット打上げをはじめとする航空宇宙産業や多様な自然環境とロードを含む晩成温泉、砂金掘りなどの特色ある資源を生かした観光の振興などにより、新しい人の流れをつくり、交流人口の増加を図るとともに、商店街の空き店舗活用や地域の特性を活かした起業の推進により、雇用の場が広がるよう取り進めます。

##### 数値 目標

- ・雇用創出：5年間で20人
- ・新規起業：5年間で5件
- ・十勝の観光客入込数 1,033万人（H30）→1,136万人（R6）

※ 北海道観光のくにつくり行動計画：目標値約10%参照

具体的な施策	重要業績評価指標 (KPI)
<p><b>1 経営の安定化と生産環境の向上</b></p> <p>① 都市の若者を農業の担い手として確保する施策を講じるとともに、新規就農者支援制度を、ニーズに合った多様な就農が可能になるよう拡充します。 また、農業の法人化、大規模化を支援し、雇用の確保を図ります。</p> <p>② 「浜の活力再生プラン※」に基づき、漁業収入向上とコスト削減の取組みを進めます。</p> <p>③ ハンターの雇用や育成など担い手の確保により、有害鳥獣の駆除、防除を推進し、生産性を向上させます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業の鳥獣被害額 H30 58,038千円 5年後 52,234千円 (10%減)</li> </ul>
<p><b>2 生産物の付加価値を高め一次産業を強化</b></p> <p>① 町内の農産物、海産物等の加工、製造に対し支援し、地域ブランドの確立など付加価値を高める活動を推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産業振興奨励事業の活用 5年間で10件</li> <li>・起業家支援事業の活用 制度継続 5年間で5件</li> </ul>

- ② 森林の整備を進めるとともに町内産木材の付加価値を高め、林業の振興を図ります。
- ③ ふるさと納税制度を活用して、町内製品のPRや関係人口の創出・拡大を図ります。
- ④ 木質バイオマスなどの新エネルギーの活用を促進し、地域資源の町内循環を推進します。

- スマート街区※の構築  
現在 木質バイオマスボイラー 1施設  
5年後 スマート街区における電気・熱源の供給 5施設

### 3 観光と起業の推進による市街地賑わいの復活

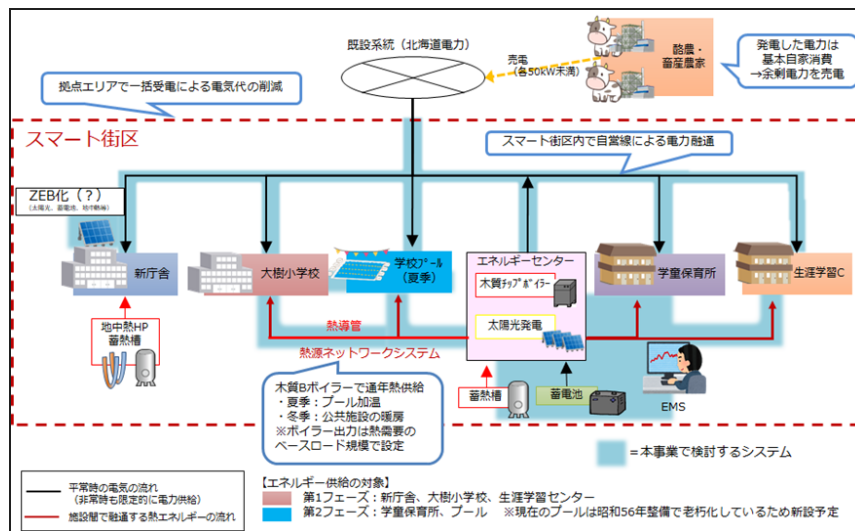
- ① 航空宇宙関連や豊富な農水産物、冷涼な気候ときれいで豊富な水資源など地域の特性を生かした起業の推進を図ります。
- ② 観光事業推進組織の整備を進めるとともに、多様な観光資源を活かした特色ある観光ツアーなどの商品造成や道の駅の観光拠点機能の整備を図るとともに、全町におけるICT※の利用促進などにより、観光入込客の増加を図ります。
- ③ 市街地に多く点在する空き店舗の活用を推進し、商店街の賑わい復活を図ります。
- ④ 今後、海外からの観光客等の訪問も見込まれることから、受け入れ体制や環境整備等、インバウンド対策の検討を進めます。

- 観光入込客数  
H30年度 58.0千人  
R6年度 63.8千人  
(10%増)
- 郊外部の光通信サービス加入世帯数 (R3 光ファイバ整備)  
R4 112世帯  
R5 210世帯

※ 浜の活力再生プラン：地域ごとの実態に沿った「取組むべき課題」を「浜の活力再生プラン」として作成し、漁業所得向上を目指す計画。

※ スマート街区：木質バイオマスボイラーの熱源と太陽光発電による電気を熱導管・自営線で接続し、一体的にエネルギーを供給する役場庁舎、小学校、生涯学習センター等の公共施設群の総称。

※ ICT：情報・通信に関する技術の総称。従来から使われている「IT (Information Technology)」に代わる言葉として使われている。海外では、ITよりICTのほうが一般的である。



スマート街区のイメージ図

## 基本目標 2 「明日につなぐ」交流と協働で進めるまちづくり

### 基本目標 の方向

大樹町は福島県相馬市、群馬県吉岡町、銀河連邦※、台湾高雄市大樹區、栃木県大田原市など多くの地域と交流を進めており、名前が「大樹」の「大樹さん」との交流にも長年取り組んでいます。

また、長年取り組んでいる宇宙のまちづくりを通じて、宇宙ベンチャー企業が町内に拠点を置くなど航空宇宙関連産業の集積に向けた機運が高まっています。

他に「お試し暮らし住宅」を設置し、大樹町を良く知ってもらい、移住への検討を促しています。今後は働く場や住居の確保を積極的にサポートし、各層が移住、定住しやすい環境づくりを進めます。

### 数値 目標

- ・航空宇宙関連企業誘致数 5年間で5社
- ・テレワークセンター等※の創出 5年後 1施設

具体的な施策	重要業績評価指標 (KPI)
<p><b>1 宇宙のまちづくりの推進</b></p> <p>① 多目的航空公園及びその周辺に、ロケット射場やスペースプレーン（宇宙往還機）が離着陸可能な滑走路、格納庫など航空宇宙関連実験・ビジネスに必要な機能を拡充していきます。</p> <p>② 航空宇宙関連産業の集積を図るため、大樹町に拠点を有し航空宇宙ビジネスにチャレンジする事業者を支援するとともに、観光など航空宇宙ビジネスと関連する産業への波及効果の創出や航空宇宙に関する普及啓発など航空宇宙関連実験・ビジネスを推進していきます。</p> <p>③ 航空宇宙関連実験や関連産業育成に関し、規制を緩和する特区の申請を検討します。</p> <p><b>2 繋がりと可能性を拡げる</b></p> <p>① 地域間交流、国際交流や航空宇宙の取組みの推進により人の呼び込みと物の売込みの拡大を図ります。</p> <p>② 大樹町の恵まれた自然環境と現有の各種運動、文化施設の有効活用を図るため、スポーツ、文化団体の合宿誘致についての調査検討を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友好都市等との物産交流の強化</li> <li>町内産品の新規移出、5年後 10品目</li> </ul>



③ お試し暮らし住宅やワーキングステイ制度の活用により、移住・定住を促進します。

•お試し暮らし住宅等利用者  
H30 現在 88 組(延べ)  
5 年後 120 組(延べ)

### 3 テレワーク、スモールビジネス等新しい芽を育てる

① ICT 技術を活用したテレワークやスモールオフィス等の開設、地域おこし協力隊の定住・起業、子ども交流事業のパッケージ化など新たなビジネスチャンスを創ります。

•テレワークセンター等の創設 5年間で1施設  
•地域おこし協力隊の定住  
R1 年度 3人  
5 年後 5人

※銀河連邦：国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）の研究施設のある 5 市 2 町が提携した友好関係都市。



大樹町多目的航空公園

## 基本目標3 「やすらぎを生み出す」人と自然にやさしいまちづくり

### 基本目標 の方向

平成27年4月に、コンパクトで美しく住み良いまちづくりをめざし、大樹町都市計画マスタープランの改定を行いました。このマスタープランに基づき安全・安心な生活空間をつくり、定住に結びつける生活環境を提供します。また、公有地、公共施設の有効活用を図り、出産・子育ての希望をかなえる取組みを進めます。

高齢化や人口減少などにより、今後、公共交通の役割や重要性が高まることから、利用者の利便性に配慮した地域交通の在り方を検討していきます。

### 数値 目標

- ・新築住宅 5年間で50戸
- ・転入者の増と転出者の減により社会増1人以上

具体的な施策	重要業績評価指標 (KPI)
<p><b>1 住み続けたい生活環境の提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 空家バンクなど住宅情報や相談体制を整備します。</li> <li>② 新築住宅助成制度を継続・検証します。</li> <li>③ 空家、中古住宅購入に対し、助成制度を継続します。</li> <li>④ 民間による住宅展示場の誘致を検討します。</li> <li>⑤ 安心して歩ける歩道網を計画的に整備します。</li> </ul> <p><b>2 公有地、公共施設の有効活用により定住を促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 遊休町有地の分譲を進めます。</li> <li>② 既存の公共施設改築を含め、屋内で子どもが遊べる場所を整備します。</li> </ul> <p><b>3 地域公共交通の在り方検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 平成29年度及び令和元年度の自動運転サービス実証実験の結果や利用者の意見を踏まえ、利用者の利便性を考慮した地域交通の在り方を検討します。</li> <li>② 「地域公共交通確保維持改善事業」(国土交通省)等を活用し、具体的な地域交通の確立を目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町有地の分譲 5年間で10区画</li> <li>・新築住宅助成制度継続・検証</li> <li>・地域公共交通網形成計画(マスタープラン)の新規策定</li> </ul>

## 基本目標 4 「人が輝く」夢を育み学びの意欲を高めるまちづくり

### 基本目標 の方向

大樹町には、小学校・中学校・高校がそれぞれ1校と認定こども園3か所があります。これらを含め生涯にわたり学ぶことが大切であることから、ライフステージに応じた学習機会の充実を図り、体験学習や地域に根ざした学習「大樹学」を通じ、ふるさとを良く知り、郷土愛を醸成することにより、この町に住み続ける人、住みたい人を増やしていきます。

また、地域に欠かせない大樹高等学校の存続支援にも取り組みます。

### 数値 目標

- ・就学前からの英語指導 100%
- ・住民一人当たりの図書貸出冊数  
(H30) 10.6冊 → (R6) 11.0冊

具体的な施策	重要業績評価指標 (KPI)
<p><b>1 小・中・高連携による「大樹学」の推進</b></p> <p>① 大樹町の子どもたちに大樹町の自然、歴史、産業、宇宙の取組みなど、地元を知る「大樹学」を切れ目なく推進し、郷土愛を醸成し、定住及びUターン希望者増を図ります。</p> <p>② 子ども農山漁村交流プロジェクトなどにより、大樹町の産業や暮らしを体験的に学ぶ機会を増やします。</p> <p>③ 子ども未来塾など放課後学習支援を拡充します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども未来塾開催回数 現在 45回/年 5年後 50回/年</li> </ul>
<p><b>2 英語をはじめグローバル化に対応した人材の育成</b></p> <p>① 幼児期から英語に慣れ親しむよう、英語指導助手による英語を学ぶ機会の充実を図ります。</p> <p>② 姉妹都市、友好都市、銀河連邦及び平成27年に友好交流協定を結んだ台湾高雄市大樹区との交流を通じグローバルな視野を持つ人材の育成を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語指導助手 2人体制の維持</li> </ul>
<p><b>3 生涯学習施設の整備と運営の充実</b></p> <p>① 体育施設の整備とあわせて各種スポーツ教室などを開催し、健康づくり体制の充実を図ります。</p> <p>② 図書館を整備し、司書等のスタッフを充実させるとともに、多面的機能も検討し、生涯学習の拠点としてまちの魅力アップを図ります。</p> <p>③ 大樹町発祥のスポーツ「ミニバレー」を通じて健康づくりの推進と、住民コミュニティの場としてのPRを図ります。</p>	



#### 4 大樹高等学校の存続に向けた支援

- ① 生徒数の確保や間口の維持に向け、入学時の諸費用や通学費の補助、各種資格試験・検定試験等の受験料助成を継続していきます。
- ② 大樹高等学校の存続に向け、大樹高等学校活性化推進協議会とともに、適正配置計画への対応や要請活動に継続して取り組みます。

## 基本目標5 「健やかに暮らす」安心と支えあいのまちづくり

### 基本目標 の方向

大樹町に住んでいる全ての人が、いきいきと健康に暮らす社会環境をつくるのがまちづくりの基本です。若者の出会いの場に関する情報提供を充実させるとともに、婚活をサポートしながら、結婚、出産を支援します。さらに、子どもから高齢者まで切れ目のない保健推進と健康づくりを図ることにより、健やかな暮らしと支えあいのまちづくりを進めます。

### 数値 目標

・合計特殊出生率 1.53      5年後 1.60

具体的な施策	重要業績評価指標 (KPI)
<p><b>1 婚活をサポートするとともに子育てをする家庭が安心して暮らせる環境を築く</b></p> <p>① 大樹っ子健診対象者の受診増を図り、全ての指導対象者に対する指導を行います。</p> <p>② ファミリーサポートの積極的なPRにより登録者を増やし、利用者増を図ります。</p> <p>③ 学童保育所・児童館の施設整備を進めます。</p> <p>④ 老朽化した法人認定こども園の移転改築を支援し、幼児教育・保育環境の整備を図ります。</p> <p>⑤ 子どもが集い、遊べるまちなか公園を整備します。</p> <p>⑥ 不妊症治療、不育症治療への支援については、引き続き充実を図ります。</p> <p>⑦ 十勝管内結婚支援協議会（仮称）などを通じ、出会いの情報提供を充実させるとともに、婚活支援事業の実施により、結婚への意識の高揚を図ります。</p> <p><b>2 住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられる環境を築く</b></p> <p>① ふまねっと*クラブなど介護予防教室の参加者増を図ります。</p> <p>② 住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、高齢者・障がい者住宅の整備を検討します。</p> <p>③ 介護ボランティアや日常生活支援サポーターの養成を進め、日常生活支援体制を構築します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大樹っ子健診による指導対象者指導 100%の維持</li> <li>・ファミリーサポート登録者 5年後 40人 利用件数 5年後 50件</li> <li>・介護予防教室等参加者 H30 3,056人 5年後 4,000人</li> <li>・介護ボランティア等の養成 5年間で 100人</li> </ul>

※ふまねっと：50センチ四方のマス目でできた大きな網を床に敷き、この網を踏まないようにゆっくり慎重に歩く運動で、「学習」しながら歩行のバランスを改善する「運動学習プログラム」です。